

いざというときに頼りになるのは地域のちからです



自分の命は、自分で守る

- ▶ 災害を“我が事”と思い、いざというときの対応を考えておきましょう。
- ▶ 「自分は大丈夫」と思いこんだり、誰かに頼りきりにならず、主体的に災害に備えましょう。
- ▶ 自分の命を守ることが、家族や地域の命を守るにつながります。

家族の命は、家族で守る

- ▶ 災害が起きる前に、家族内でいざというときの対応を確認し、日ごろから備えましょう。

自分たちの地域は、自分たちで守る

- ▶ 日ごろから、近所の人とあいさつを交わしたり、地域のイベントに参加することで、顔の見える関係をつくるよう心掛けましょう。
- ▶ いざという時には、声をかけあってみんなで避難しましょう。

災害時、あなたの助けを必要としている人がいます

危険に気付いていない人

来訪者

身体が不自由な人

高齢者

妊婦

子ども

避難所生活の心得

避難所での生活は大変不自由です。何日も続くと体調をくずしてしまうこともあります。少しでも快適に過ごせるようにルールやマナーを守り、みんなで危機を乗り越えましょう。

お互いに助け合いましょう

避難所運営はみんなで助け合いましょう。

避難所の物資は避難所にいる人たちだけのものではありません。自宅にとどまっている人や車に避難している人へも提供します。



ペットと避難するときは

ペットは指定された場所でルールを守り飼育しましょう。ペットがほかの人や動物に迷惑をかけないように日ごろからしつけし、ケージに慣れさせておきましょう。また、定期的な各種ワクチン接種を受けましょう。



安心してすごせるように

高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、アレルギーなどの疾患のある人、外国人など、さまざまな人たちが一緒に生活します。お互いに配慮しましょう。

全国では避難生活の中で命を落とした事例も少なくありません。不調を感じたら、医師や保健師などに相談しましょう。また、つらそうな人がいたら、声をかけてあげましょう。



感染症対策をしましょう

新型コロナウイルスなどの感染症を防ぐため、各自で対策をしましょう。

- ▶ 感染症予防グッズを持参しましょう。
- ▶ こまめにアルコール消毒しましょう。
- ▶ マスクの着用・咳エチケットを心掛けましょう。



自主避難計画のすすめ みんなで決めて、みんなで避難

避難を呼びかける情報があったとしても、個人では避難をためらってしまいがちです。地域で逃げる仕組みを考えておくことで、避難の決断がしやすくなります。

日ごろから…

避難先や避難のきっかけをみんなで決めておく



1人では避難できないかたをみんなで把握する

その時がきたら…

みんなで逃げよう!



例えば…声をかけあってみんなで早めの避難



みんなで手を取り合い助け合うことが大切です

隣近所の人や地域の人と、声をかけあえる関係づくりのためにも自治会・自主防災会の活動に積極的に参加しましょう。



自分たちの地域は、自分たちで守る

地区独自の防災マップ、自主避難ルール作成の取り組み



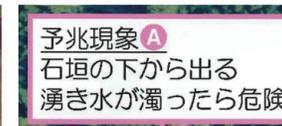
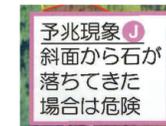
町内の3つの地区では過去に、土砂災害による犠牲者を無くすための住民主体の取り組みを実施※しました。

地区ごとに地域内で過去に災害が発生した場所や、大雨が降った際に見られる災害の前兆現象や、地域内における危険箇所を洗い出しました。それらを踏まえて避難場所や避難ルートを検討しました。また、地域の方が行政の指示を待たずに自らの判断により避難を開始する「自主避難ルール」も決め、地区独自の「防災マップ」としてまとめました。みんなで決めた「自主避難ルール」に不足はないか確認するため、避難訓練も実施しました。



地域から犠牲者を出さないためには、このように普段から地域の防災マップや避難ルールを作成し、いざというときには地域住民が協力して避難することが重要です。

地域で決めた避難のきっかけとなる予兆現象(例)



※平成19・20年度に群馬県が群馬大学と協働し、魚尾・持倉・船子二区で実施